

1. 長期成長ビジョン

長期成長ビジョンは「一人でも多くの人の健康で豊かな生活に貢献する」ことを掲げ、本補助事業を通じて社会的需要が拡大する医薬品の供給と薬不足問題の解消に取り組み持続的な成長を実現する

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

「一人でも多くの人の健康で豊かな生活に貢献する」

医薬品の供給不足に対する不安等、国民の不安を解消していくことで、「一人でも多くの人が健康で豊かな生活を送る」ことを目指す。そのために、当社が局方品においてトップシェアを獲得してきたノウハウを生かし、社会的需要が拡大する医薬品の供給と薬不足問題の解消に取り組み、持続的な成長を実現する

主力製品の国内および海外のさらなる需要拡大への対応と不足している後発医薬品の安定的供給を実現し、社会的貢献を果たす

① 将来の国内・海外の需要拡大に対する生産能力増強

- ・ 新工場を建設し生産能力を増強することで、国内・海外需要の増加による市場の成長に対し、安定供給が可能な体制を構築する

② 後発医薬品の供給不足に対する安定供給の実現

- ・ ローコストオペレーションのノウハウを生かし、供給不足となっている低薬価の後発医薬品について採算を確保しながら、安定的な供給を実現することで社会的課題の解決に貢献する
- ・ 新工場では自動化ラインの導入による労働生産性の向上を図り、将来的な人材不足にも対応

会社全体の売上成長目標（2023年度～2030年度）

- ・ 売上高成長率7.8%
- ・ 売上高増加額186億円

会社全体の年平均賃上げ目標

- ・ 5.2%（2023年度～2027年度）
- ・ 8.7%（2027年度～2030年度）

外発的動機

- ・ 厚生労働省医政局によると、医薬品全体の18.5%に当たる 3,103 品目が限定出荷または供給停止状態(2024年11月)にあり、特に需要がある低薬価の後発医薬品を中心として供給が不安定な状況にある
- ・ 今後も医薬品市場は高齢者数の増加に伴う医薬品需要の増加、後発医薬品の使用促進政策に伴う供給不足の発生などにより、今後も深刻な薬不足が続く見通し
- ・ 後発医薬品の使用促進政策等に伴い、後発医薬品の市場規模は CAGR 6.9%で成長することが見込まれる
- ・ 世界的な高齢者数の増加やライフスタイルの変化によって慢性便秘有病率の上昇により、世界市場の規模が拡大しており、今後もCAGR 6.3%で成長することが見込まれる
- ・ 治療薬としては、従来の刺激性の便秘症向け医薬品から非刺激性への移行が進んでいる

内発的動機

- ・ 当社は創業以来、局方品のカテゴリーにおいて多くの品目を安定供給しており、トップシェアの地位を確保している
- ・ 局方品は汎用性が高く需要量が多い一方で、規格の統一により、製品の差別化が困難であることから、販売価格が低くなる傾向にあるが、当社は ローコストオペレーションの構築により低単価でも採算を確保しながら安定供給を行ってきた
- ・ 低薬価の後発医薬品は、採算性を理由とした他社撤退による供給不足がさらに深刻化する見通しであり、当社はローコストオペレーションの強みを生かして後発薬市場に本格参入することで薬不足の解消に貢献できていると考えている
- ・ 非刺激性の便秘症向け医薬品についても、今後の世界的需要増加に対して トップメーカーとして供給責任を果たしていきたいと考えている

2.補助事業の概要

主力製品である便秘症向け医薬品の国内・海外需要の拡大および後発医薬品の供給不足に対し、新工場建設による生産能力の増強、最新設備導入による生産性向上を図り、労働生産性の改善を実現する

補助事業の
背景・目的

- 新工場建設により、主力製品の便秘症向け医薬品の生産能力を増強し、需要拡大に対応する
- 最新設備の導入による自動化ラインの設置により生産性向上を図り、低薬価の後発医薬品においても採算を確保し、安定供給ができる生産体制を構築する

事業費
(補助額)117億円
(35億円)設備投資の
内容

生産能力増強のための新工場建設

- 新工場である十三第2工場は延べ床面積約5,800㎡・4階建ての建設を予定
- 便秘症向け医薬品と後発医薬品の製造ラインを導入し、生産能力の増強を図る
- 既存工場で製造している便秘症向けのOTC医薬品の製造ラインを新工場に移管することで、各工場の役割を明確化し、段取時間削減による稼働時間向上で各工場の生産性改善を実現する

生産性向上のための特注の設備導入・最新設備の導入

- 秤量、調合、洗浄、充填・包装工程へ最新設備を導入し、製造ラインを完全自動化することで省人化および生産性向上を図り、労働生産性を改善する
- グリセリン浣腸液の充填・包装工程に対しては、製品の複雑な形状に対応した特注の設備を導入することで、従来の設備では達成できなかった完全自動化を実現
- 各製造ラインの製造設備を拡大し、段取り替えを削減することで設備稼働効率を改善し、生産性向上を図る

十三第2工場(新工場)イメージ



目標値

項目	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度 + 3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	1,982	2,807 (年平均上昇率+12.3%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	433	561 (年平均上昇率+9.0%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	-	- (年平均上昇率+6.5%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	683	716